

佐賀市(佐賀県)の一体的実施

平成24年8月1日事業開始

市役所庁舎内に佐賀市福祉・就労支援コーナー【愛称「えびすワークさがし」】を開設し、市とハローワーク佐賀による生活困窮者、障がい者等に対する一体的支援を実施

市

福祉サービス、相談の実施等

① 事業内容

- ・生活保護受給者、住宅手当受給者等の生活困窮者及び母子家庭の母などに対する支援
- ・障がい者に対する支援
- ・その他、福祉事務所の福祉サービス対象者に対する支援

② 協定・事業計画

- ・佐賀市長と佐賀労働局長の間で協定(*)を締結
- ・数値目標を盛り込んだ事業計画を佐賀市と佐賀労働局の間で策定

(*) 協定の実施等について相互に要望することができ、出された要望には誠実に対応する旨を規定。

③ 運営協議会

- ・佐賀市職員、佐賀労働局職員、有識者をメンバーとする運営協議会を設置
(佐賀市保健福祉部長が会長)



国

職業紹介・職業相談の実施等

福祉・就労支援室を設置し、専任の室長を中心に関係課の兼務職員、就労支援相談員等及びハローワークのナビゲーターで就労支援チーム結成し、身近な市役所で福祉から就労までの支援を実現

(1) 実施体制

市

- ・福祉・就労支援室を設置(専任1名、兼務4名)
- ・生活保護就労相談員 4名(うち1名は室の調整役)
- ・住宅確保就労支援員 2名
- ・障がい福祉課就労支援相談員 2名
- ・福祉総務課母子自立支援プログラム策定員 1名
- ・こども教育部こども課母子自立支援員 2名

国

- ・就職支援ナビゲーター 2名
- ・求人情報提供端末 2台
- ・職業紹介端末 2台

就労支援チームを結成

(2) 事業目標と取組状況 【平成24年8月1日～平成25年3月31日】

	24年度事業目標	取組状況(平成24年9月末時点)
生活困窮者に対する支援	◇就職90人以上(紹介就職70人以上)	◇就職55人(紹介就職46人) (※参考 一般求職者就職2人)
障がい者に対する支援	◇障がい者の各種相談 24人以上 ◇紹介就職 10人以上 ◇求人開拓等のための訪問 10事業所以上	◇各種相談 26人 ◇就職2人(紹介就職2人)
ハローワークが行う面接会、職場見学、就職支援セミナー等への勧奨		○就職支援セミナー参加者3人 ○就労支援室(市)担当より、保護者を対象としたセミナーの実施(毎月1回～2回実施予定)

市長：秀島 敏行

自治体：佐賀県佐賀市（人口：約23万6千人）



市長のコメント：

- 市役所にお見えになるお客様から就職の相談を受けた場合、これまではハローワーク佐賀で職業紹介を受けられるようお話をしていましたが、「えびすワークさがし」が市役所に設置されてからは、職業紹介をすぐに受けていただくことができるだけでなく、市の相談員等が同席して効率的で迅速な就職の支援ができるようになりました。
- 特に、生活保護を受給されている支援対象者の方の求職活動については、市のケースワーカーと相談員がハローワーク佐賀の就職支援ナビゲーターと一体となり、職業相談・紹介がきめ細かく実施され、その結果、何年も就職できなかった人を就職に結びつけることができたという事例がありました。
- 市と国が直接連携・協力することにより、福祉サービスの提供だけではない、社会的自立、経済的自立のための新しい雇用福祉サービスの提供という、新たな地方自治体の支援のあり方を模索していきたいと考えております。

一体的実施事業による就職成功例

男性：50歳代前半 希望職種：警備

○ 生活保護に至る過程

警備及び土木作業の仕事を転々としていたが、土木事業所が廃業となり失職。その後は就職もできず野宿し、生活保護申請

① 抱える課題

- ・保護開始後3年8か月を経過しているが、保証人や通勤手段等がネックとなり就職活動が思うようにできなかった。
- ・職种的には拘りはないが、自立するにあたり給与等にこだわり希望する求人がない。
- ・長期的な保護生活により、就労意欲はあるものの、すぐに就職できる体力等が乏しい状態であった。

② 支援内容・ポイント・経過

- ・就職支援ナビゲーターと市の相談員によるチーム支援により職業相談を実施。その中で課題や問題点を把握。
- ・警備業の職歴が長く、本人の意欲も積極的であり、職种的にあっていると考えられたので、本人の状況に理解のある警備会社への応募を支援。
- ・本人の状況を説明し、理解された事業所に紹介し採用に至る。

③ 結果

※チーム支援期間 1か月

- 市内警備会社に正社員採用
- ・警備員（交通誘導員）

男性：50歳代前半 希望職種：営業

○ 生活保護に至る過程

自身の営業成績維持のため借金を重ね、営業の仕事を離職し、再就職を試みたが就職できず、生活保護申請

① 抱える課題

- ・保護開始後1年3か月を経過しているが、熱心な就職活動をしていなかった。
- ・プライドが高く、有名企業を希望するなど就職の範囲を限定して就職活動をしていた。
- ・雇用形態、給料等の条件についても、管内の現状と乖離していた。

② 支援内容・ポイント・経過

- ・就職支援ナビゲーターと市の相談員によるチーム支援により職業相談を複数回実施。
- ・チーム支援の中で、本人の営業のスキルを評価し、活かす方向で助言をするとともに、管内の求人情報を提供して、本人の理解が得られるまで丁寧に説明。
- ・給料より職種（営業職）を重視して応募し、本人の能力を期待されて採用に至る。

③ 結果

※チーム支援期間 1か月

- 市内の葬祭会社に正社員採用(3か月の試用期間後)
- ・営業職、後にはマネージャーとして期待されている
 - ・1日8時間程度 週5日勤務（土日の勤務あり）